

4 ホストファミリー代表者の招へい

訪問国における長年にわたるPYのホームステイ受入れの実績に対して感謝の意を表明するとともに、日本国内活動などの各種プログラムを体験することにより「東南アジア青年の船」事業への理解を更に深め、各国におけるホームステイ受入れを円滑に進めることを目的として、各国のホストファミリー代表者を7か国から2名ずつ、合計14名を日本に招へいた。

ホストファミリー代表者は10月23日から27日までの5日間の日程で日本に滞在し、第44回「東南アジア青年の

船」事業参集式に参加したほか、和田昭夫内閣府青年国際交流担当室長への表敬訪問を行った。



5 船内公開・出航式

11月2日13時30分から、日本参加青年の家族・友人、事業関係者などを対象として、東京港からの出航に先立って、にっぽん丸の船内公開を行った。

その後、15時15分から、にっぽん丸ドルフィンホールにて、駐日ASEAN各国大使館代表者及び関係者列席のもと、出航式を行った。和田昭夫内閣府青年国際交流

担当室長及び高下正晴日本青年国際交流機構会長から激励の言葉を受け、PYを代表してMr. Hairolnizam Bin Sami'on (シンガポールAYL) が挨拶をした。

出航式終了後の16時00分、にっぽん丸はカンボジアに向けて東京港晴海ふ頭から出航した。



出航式にて、和田昭夫内閣府青年国際交流担当室長が激励のことばを述べる(11月2日)



東京港にて見送りに来た家族や友人(11月2日)

第4章

運航(船内及び訪問国活動)



1 運航日程・航路図

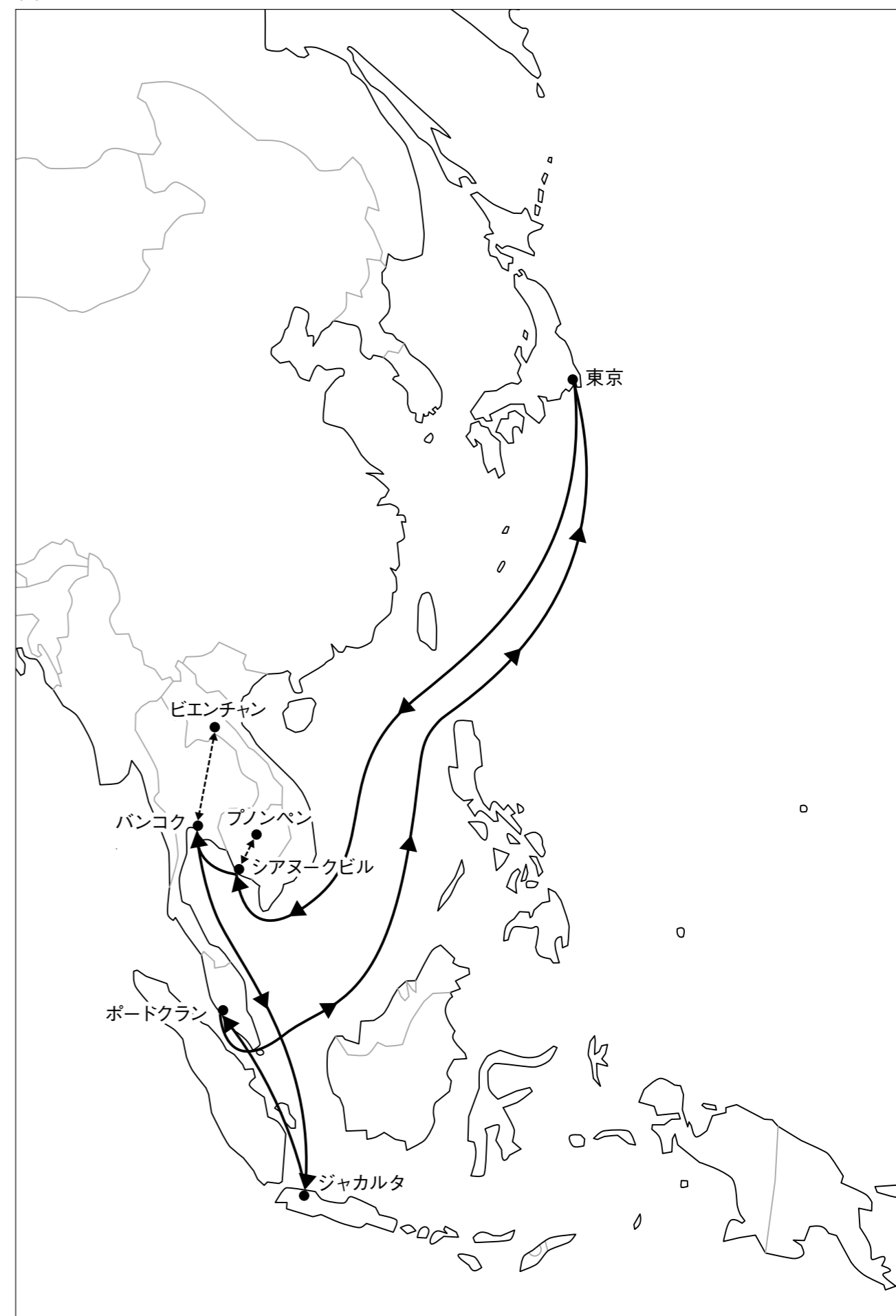
(1) 運航日程

	入港	出港
東京（日本）		11月2日
シアヌークビル（カンボジア）	11月9日	11月13日
バンコク（タイ）	11月16日	11月20日
ジャカルタ（インドネシア）	11月24日	11月27日
ポートクラン（マレーシア）	11月30日	12月3日
東京（日本）	12月12日	

（注）

- ASEAN各国のナショナル・リーダー（NL）及び参加青年（PY）は10月23日に来日し、翌24日に日本NL及びPYと合流、日本国内活動の後、11月1日に乗船。
- ファシリテーターは、10月28日に来日、12月3日にポートクラン（マレーシア）にて下船、帰国。
- タイ寄港中、代表団が航空機でビエンチャン（ラオス）を訪問。（11月17日～19日）
- ASEAN各国NL及びPYは12月13日に下船、帰国。
- 日本NL及びPYは12月13日に下船、帰国後研修後、12月14日に解散。
- 事後活動組織代表者は12月1日にポートクラン（マレーシア）に参集し、船内及び日本での活動後、12月15日に帰国。

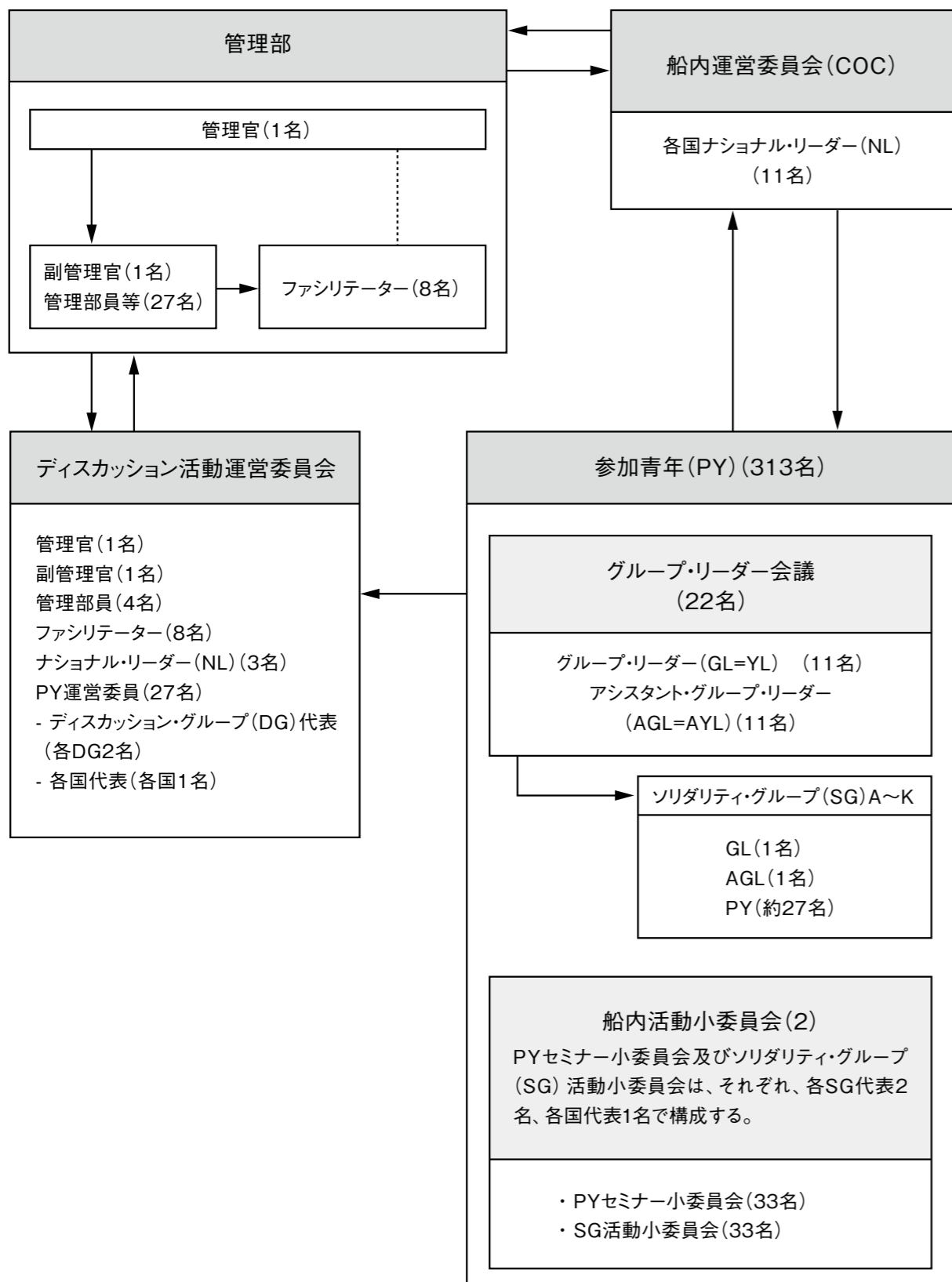
(2) 航路図



2 船内組織

(1) 船内組織図

平成29年度「東南アジア青年の船」事業（第44回）の船内組織は、次のとおりである。



(2) 船内運営委員会 (COC)

COCは、NL11名をもって構成し、船内における生活基準、船内活動等の基本的事項について、協議・決定する。また、グループ・リーダー会議、ディスカッション

活動運営委員会、各船内活動小委員会及びPYに対し、指導及び助言を行う。

なお、管理官は、COCに対し必要に応じて指導及び助言を行うことができる。

[NL名簿]

国名	性別	職業	担当会議・小委員会
日本	女	添乗員、通訳	グループ・リーダー会議
カンボジア	男	公務員	PYセミナー小委員会
タイ	女	公務員	SG活動小委員会
ラオス	男	公務員	SG活動小委員会
インドネシア	男	会社員	PYセミナー小委員会
マレーシア	女	公務員	グループ・リーダー会議
ブルネイ	男	公務員	ディスカッション活動運営委員会
ミャンマー	女	教師	PYセミナー小委員会
フィリピン	女	公務員	ディスカッション活動運営委員会
シンガポール	男	会社員	SG活動小委員会
ベトナム	男	公務員	ディスカッション活動運営委員会

(3) ソリダリティ・グループ (SG)

船内及び訪問国における活動の基礎単位として、各国PYほぼ同数の男女から成る約29名ずつのグループを組織した。これをソリダリティ・グループ (SG) と呼び、SG-AからSG-Kまで計11グループに編成した。

各SGには、それぞれグループ・リーダー (GL) 及びアシスタント・グループ・リーダー (AGL) を置き、彼らがグループを統率した。GL及びAGLには、各国のユース・リーダー (YL) 及びアシスタント・ユース・リーダー (AYL) を充て、かつ、同国のYLとAYLが同じSGに割り当てられないよう配慮して編成した。

また、各種活動・情報伝達を円滑に行うために、なる

べく同じSGのメンバーが同室となるよう考慮した。

(4) グループ・リーダー会議 (GLミーティング)

グループ・リーダー会議は、それぞれ11名のGL及びAGLにより構成し、NL2名（日本、マレーシア）を顧問とし、必要に応じて船内活動等について協議し、COC等に対して意見を述べた。また、COC又は管理部からのPYに対する連絡事項の伝達やSG間の調整を行った。

PYから提案された様々な自主活動の企画については、必要に応じてグループ・リーダー会議を通して検討・調整し、実施した。

[GL・AGL名簿]

SG	性別	国名	性別	国名
A	女	インドネシア	男	ラオス
B	男	ブルネイ	女	フィリピン
C	男	マレーシア	女	カンボジア
D	男	ベトナム	女	ブルネイ
E	女	シンガポール	男	タイ
F	男	日本	女	ミャンマー

SG		性別	国名		性別	国名
G		男	ミャンマー		女	ベトナム
H		女	タイ		男	シンガポール
I		女	ラオス		男	インドネシア
J		男	カンボジア		女	マレーシア
K		男	フィリピン		女	日本

(5) ディスカッション活動運営委員会

ディスカッション活動運営委員会は、ディスカッション活動の適切な運営を図るため、管理官、副管理官、管理部員（4名）、ファシリテーター（8名）、NL（3名）、

PY運営委員（27名）をもって構成した。

ファシリテーターは、管理官の命を受けて、本事業に係る事務のうちディスカッションに関するものを処理した。

【ディスカッション活動運営委員会名簿】 *国名に下線付きは国代表 PY

	グループ・テーマ		性別	国名
管理官			男	
副管理官			男	
管理部員			女	
			男	
			女	
			女	
ファシリテーター	グローバル化の功罪		男	日本
	情報とメディア		女	シンガポール
	国際関係（日・ASEAN協力）		女	フィリピン
	生活習慣病対策		女	ネパール
	質の高い教育		男	タイ
	不平等の是正		男	ブルネイ
	レジリエントで持続可能な都市づくり		男	インドネシア
	青年の起業		男	シンガポール
NL			男	ブルネイ
			女	フィリピン
			男	ベトナム

	グループ・テーマ		性別	国名
PY運営委員	グローバル化の功罪		女	マレーシア
			男	フィリピン
			男	フィリピン
			女	シンガポール
			女	ベトナム
	情報とメディア		女	日本
			女	インドネシア
			男	フィリピン
	国際関係（日・ASEAN協力）		女	ラオス
			男	マレーシア
			女	ブルネイ
	生活習慣病対策		男	インドネシア
			女	マレーシア
			女	シンガポール
			男	ベトナム
	質の高い教育		女	カンボジア
			女	インドネシア
	不平等の是正		男	カンボジア
			男	フィリピン
	レジリエントで持続可能な都市づくり		男	カンボジア
			男	インドネシア
			男	ブルネイ
			女	ミャンマー
			女	シンガポール
	青年の起業		女	タイ
			男	マレーシア
			男	ベトナム

(6) 船内活動小委員会

船内活動小委員会はPYで構成し、NLを顧問とし、各船内活動の実施の細目について協議、決定する機関である。

PYセミナー及びSG活動の各小委員会は、各SG代表2名、各国代表1名で構成し、それぞれ計33名で構成し

た。PYセミナー小委員会の顧問をNL3名（カンボジア、インドネシア、ミャンマー）が、SG活動小委員会の顧問をNL3名（タイ、ラオス、シンガポール）が、それぞれ務めた

【PY セミナー活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表

SG		性別	国名
A		男	タイ
		女	ミャンマー
B		男	ブルネイ
		女	フィリピン
C		女	日本
		男	タイ
		男	<u>ラオス</u>
		女	<u>フィリピン</u>
		女	<u>シンガポール</u>
D		女	<u>日本</u>
		女	日本
		女	インドネシア
E		女	日本
		男	マレーシア
F		男	日本
		女	<u>タイ</u>
		女	インドネシア
G		男	カンボジア
		女	<u>カンボジア</u>
		女	インドネシア
		女	<u>ブルネイ</u>
H		男	日本
		男	<u>インドネシア</u>
		女	インドネシア
I		女	タイ
		男	マレーシア
J		女	カンボジア
		男	<u>マレーシア</u>
		男	<u>ミャンマー</u>
		男	<u>ベトナム</u>
		女	ベトナム
K		女	タイ
		女	シンガポール

【SG 活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

SG		性別	国名
A		男	日本
		女	タイ
		女	<u>シンガポール</u>
B		女	タイ
		男	インドネシア
C		男	<u>マレーシア</u>
		男	ブルネイ
		女	ベトナム
D		男	タイ
		女	インドネシア
E		女	タイ
		男	ミャンマー
		女	<u>フィリピン</u>
F		男	インドネシア
		女	フィリピン
		女	<u>ベトナム</u>
G		女	<u>日本</u>
		女	タイ
		女	フィリピン
H		女	日本
		男	<u>カンボジア</u>
		男	マレーシア
I		女	日本
		男	<u>インドネシア</u>
		女	<u>ブルネイ</u>
		男	フィリピン
J		女	<u>タイ</u>
		男	<u>ラオス</u>
		男	マレーシア
		女	<u>ミャンマー</u>
		女	フィリピン
K		女	ラオス
		男	シンガポール

3 船内運営委員会（COC）

COCにおける協議事項は、次のとおり、生活規律・船内活動・訪問国活動など、広範多岐にわたった。

第1回COCはNL会議の際に東京で、第2回以降は基本的に各訪問国活動最終日の出港後に開催した。

第1回COCの際に協議・決定した事項のうち、PYに周知・徹底すべきものについては「プログラム・ファイル」にまとめ、全参加者に配布した。

また、船内におけるPYへの連絡事項については、モーニング・アセンブリー、国別ミーティングや、船内所定の掲示板を利用した。

【COC協議事項】

第1回（9月15日、内閣府）

「第2章6. ナショナル・リーダー会議」を参照。

第2回（11月2日、船内COCルーム）

1. 日本国内活動の振り返り

2. 船内活動及び船内生活について
3. その他

第3回（11月13日、船内COCルーム）

1. カンボジアにおける訪問国活動の振り返り
2. その他

第4回（11月27日、船内COCルーム）

1. タイ、ラオス及びインドネシアにおける訪問国活動の振り返り
2. その他

第5回（12月3日、船内COCルーム）

1. マレーシアにおける訪問国活動の振り返り
2. その他

4 船内活動

(1) 船内生活

① 船内生活時間

航海中の船内生活時間は、訪問国における活動を除き、次のとおりである。

時間	活動内容
7:00	起床（モーニングコール）
7:30- 8:00	運動
8:00- 9:00	朝食
9:15- 9:45	モーニング・アセンブリー
10:00-12:45	活動
12:45-14:15	昼食
14:15-17:00	活動
17:00-18:00	自由
18:00-19:30	夕食
19:30-20:45	活動
20:45-23:00	自由
23:00	消灯（ナイトコール） ナイトパトロール

② 船内生活のあらまし

● モーニングコール、ナイトコール

モーニングコールは、毎朝7時に、PYが当番制（SG持ち回り）で、船内放送を使用して起床の呼びかけや音

楽を流す等、趣向を凝らして行った。

また、ナイトコールは、毎晩23時に、モーニングコールを担当したSGが同様に行った。

● 運動

毎朝7時30分から8時まで、ドルフィンホール又はスポーツデッキで、PYが当番制（SG持ち回り）で実施し、内容は音楽を使った体操やダンス等多彩であった。運動への参加は任意とした。

● モーニング・アセンブリー

毎朝9時15分から9時45分まで、ドルフィンホールにおいて、SG毎に整列し点呼及び健康確認を行い、その後、当番のNLが当日のスケジュール確認や連絡事項の伝達を行った。

● 活動

午前、午後及び夜の三つの活動時間帯に分けて行った（詳細は後述）。

午前及び午後の活動としては、ディスカッション活動、PYセミナー及びSG活動等を、夜の活動としてはナショナル・プレゼンテーション（NP）や自主活動を、それぞれ実施した。

● ナイトパトロール

ナイトコール終了後、NLが当番制で、船内各所を見回り、異常の有無を確認し、安全の確保に努めた。

(2) 船内活動構成

船内活動	時限	活動内容
ディスカッション活動 ・ 導入プログラム ・ グループ・ディスカッション ・ 事後活動の企画・実践への導入 ・ 事後活動の企画・実践に向けたワークショップ ・ まとめ ・ 成果報告会準備・DG毎のレポート作成 ・ 成果発表会 ・ 自己評価	26 (2) (10) (2) (2) (2) (2) (4) (2)	共通テーマ「青年の社会活動への参加」の下、8つの異なるテーマが設定され、ファシリテーターの指導によりディスカッションを行った
事後活動セッション	8	SSEAYPインターナショナルと各国事後活動組織についての説明及び事業終了後に行う社会貢献活動案の企画
PYセミナー ・ PYセミナー活動紹介 ・ PYセミナー	10 (2) (8)	PYセミナー小委員会が調整役となり、PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動
SG活動	6	SG活動小委員会が調整役となり、各SGにおける参加青年相互の理解と友情を深めるための活動
各国紹介 (ナショナル・プレゼンテーション)	11	文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を国ごとに紹介する活動
講話 ・ 管理官講話 ・ 船長講話	2 (1) (1)	管理官による講話 船長による航海経験等に関する講話
フリーデイ	15	公式な活動を行わず、体調管理や、自発的かつ自由に参加者同士の交流を深めるための時間
自主活動	9	明確な目標・目的を持った各種イベントやセミナーなどをPYが自由に企画・運営する活動
委員会	7	GLミーティング、ディスカッション活動運営委員会、船内活動小委員会
国別ミーティング	5	船内活動及び訪問国活動の振り返り等
訪問国活動振り返り	4	訪問国活動における経験の共有と振り返りをSGごとに行う活動
管理部によるオリエンテーション	1	船内活動、カウンター受付、物品貸出、活動場所予約などの説明
海事・通関関係 ・ 船側オリエンテーション・避難訓練 ・ 船内見学・写真撮影 ・ 下船手続き説明 ・ 荷物移動	7 (1) (2) (1) (3)	船内設備説明・非常時を想定した避難訓練等 操舵室の見学、報告書用の写真撮影 入国・下船手続き、通関などの説明 荷物の移動、清掃等
フェアウェル・フェスティバル準備	2	
フェアウェル・フェスティバル	1	GLミーティングによる企画・運営のお別れ会
帰国報告会準備	1	
帰国報告会	1	国ごとの事後活動案の発表及び管理官による報告
解散式	1	NL及びPYへの参加証の授与
解散交歓会	1	
合計	118	

注) 「時限」の一部は四捨五入している場合がある。

(3) 船内活動実績

月 日	10:00～11:15	11:30～12:45	14:15～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45
11月 1日(水)	乗船 船側オリエンテーション			荷物移動	
2日(木)	避難訓練	出国手続	船内公開	出航式	国別 ミーティング
3日(金)	オリエンテーション	GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/船内活動小委員会			自主活動
4日(土)	GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/ 船内活動小委員会		写真撮影/船内見学 (SG毎)		自主活動
5日(日)	管理官講話	船長講話	ディスカッション活動 (導入プログラム)		カンボジア紹介
6日(月)	フリーデイ (半日)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションI)		日本紹介
7日(火)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションII)		ソリダリティ・グループ活動 (1)		ブルネイ紹介
8日(水)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIII)		訪問国活動振り返り<SG毎> (1)		ミャンマー紹介
9日(木)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIV)		PYセミナー活動紹介		
10日(金) 11日(土) 12日(日)	カンボジア訪問国活動				
13日(月)				国別 ミーティング	COCミーティング 自主活動
14日(火)	フリーデイ (半日)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションV)		タイ紹介
15日(水)	ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践への導入)		ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践に向けたワークショップ)		ラオス紹介
16日(木) 17日(金) 18日(土) 19日(日) 20日(月)	タイ訪問国活動 代表団によるラオス訪問国活動 (11月17日 (金)～19日 (日))				
21日(火)	フリーデイ				
22日(水)	ディスカッション活動 (まとめ)		GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/ 船内活動小委員会		シンガポール紹介
23日(木)	ディスカッション活動 (成果発表会の準備・DG毎のレポート作成)		PYセミナー(1)	PYセミナー(2)	
24日(金) 25日(土) 26日(日)	インドネシア訪問国活動				
27日(月)				国別 ミーティング	COCミーティング 自主活動
28日(火)	ディスカッション活動 (成果発表会)			ベトナム紹介	
29日(水)	ディスカッション活動 (自己評価)				
30日(木) 12月 1日(金) 2日(土)	マレーシア訪問国活動				
3日(日)				国別 ミーティング	COCミーティング 自主活動
4日(月)	フリーデイ				マレーシア紹介
5日(火)	事後活動セッションI (全体会)		PYセミナー(3)	PYセミナー(4)	
					フィリピン紹介

月 日	10:00～11:15	11:30～12:45	14:15～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45
6日(水)	事後活動セッションII (国別・各国の事後活動紹介)		PYセミナー(5)	PYセミナー(6)	インドネシア紹介
7日(木)	事後活動セッションIII (国別プロジェクト案議論・作成)		ソリダリティ・グループ活動 (2)		自主活動
8日(金)	フリーデイ (半日)		PYセミナー(7)	PYセミナー(8)	自主活動
9日(土)	事後活動セッションIV (国別プロジェクト案完成・帰国報告会準備)		ソリダリティ・グループ活動 (3)		自主活動
10日(日)	訪問国活動振り返り<ソリダリティ・グループ毎> (2)		フェアウェルフェスティバル準備		フェアウェル フェスティバル
11日(月)	下船手続説明	国別ミーティング	荷物移動		
12日(火)	入国手続・荷物審査		帰国報告会準備	帰国報告会	解散式 解散交流会
13日(水)	下船				

(4) ディスカッション活動・事後活動セッション

ディスカッション活動は、異なる背景を持つ各国PYが自由に意見交換を行うことによって相互理解を深めるとともに、集団の中での意見のやり取りをする能力の向上、及び人前でのプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とした活動である。

事後活動セッションは、ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の促進、事後活動組織のネットワーク強化を目的として実施した。

詳しくは、第5章「ディスカッション活動・事後活動セッション」を参照。

(5) PYセミナー

PYセミナーは、PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動として、次のことを目的として実施した。

[参加PY]

・ PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等を仲間と共有することによりお互いのバックグラウンドをより深く知ること。

[主催PY]

・ 自らの考えや経験等を仲間に伝えることによりプレゼンテーション能力を高めること。

・ セミナーの企画・立案から実施までの一連のプロセスを経験することによりプロジェクトの遂行能力を高めること。

また、PYセミナーの運営は、担当顧問であるNL3名（カンボジア、インドネシア、ミャンマー）の指導の下、PYセミナー小委員会が次の方針に沿って行った。

・ セミナーのテーマは「社会をより良くするための取組」を基本とし、知的な学びがある内容とするこ

と。ただし、「東南アジア青年の船」事業の目的に沿った内容であれば、テーマは限定されない。

・ セミナーの内容は、PYがこれまでに取組んできた、また現在取組んでいる研究や活動から得られた経験や知識のほか、PYの自国の活動報告で各国と共有する価値があるようなものでも良い。

・ 各セミナーは、PY個人又はPY数人のグループで協力して運営する。

・ PYセミナーの手法として、講義方式、ワークショップ方式、ディスカッション方式、その他、セミナーのテーマに適した効果的な方法で実施する。

・ 原則として、一つのPYセミナーは、1セッション（75分）又は連続した2セッション（75分×2）で実施する。

まず、11月9日に、PYセミナーを主催するPYが全PYに対して、各PYセミナーの活動内容を紹介した。PYは、PYセミナー8セッションの全てに、主催者又は参加者の立場を選んで、それぞれ一つずつのPYセミナーに参加した。

開設されたPYセミナーは別表のとおりである。



[1-3] ダンスで上を目指そう (タイ) (11月23日)

PYセミナー一覧

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
1-1	ブルネイ	服や食べ物だけではない！		<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物と動物虐待 ・洋服と動物虐待 ・実践的 ・人道的教育
1-2	インドネシア	VIP 101 (101の大変重要な教え)		<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアのお茶と食事の作法: 食事をするときには右手を使う
1-3	タイ	ダンスで上を目指そう		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップに求められる資質と自信の重要性について議論する ・非言語コミュニケーションの良し悪しを理解する ・堂々とした歩き方を練習する ・社交ダンスを通して良い個性を学ぶ
1-4	フィリピン	「分けることができないもの」フィリピンの先住民族と私達をつないでくれる彼らの物語		<ul style="list-style-type: none"> ・ルソン島の先住民族 ・ピサヤ諸島の先住民族 ・ミンダナオ島の先住民族 ・ドレスアップ(先住民の衣装)
1-5	日本	浴衣スキップ		<ul style="list-style-type: none"> ・浴衣を着て郡上踊り
1-6	カンボジア	記憶マスターになろう		<ul style="list-style-type: none"> ・最初の手紙、演習(参加者は、森の中で物品リストを見つける) ・場所、演習(参加者は、人を救出するという冒険の旅に出る) ・1対1の対戦:記憶法の実践

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物虐待に対する相互理解を促し、動物が持つ権利の保護 2. 違法で無責任な動物製品の様々なケーススタディを挙げる 3. 人道的教育の紹介 4. PYが動物や環境に対し共感、尊重、理解する気持ちを深く育てる手助けをする 5. PYが分別、正義、思いやりの観点から自分の信念や価値を育てる手助けをする 6. 自分の信念に基づいて主張し行動するという一連の責任意識を育てる 	<p>本PYセミナーの目標は出席したPYが動物虐待について更に深く学習したいと意欲を持ってもらうことであった。深い議論のためには更なる説明が必要だったが、PY達はディスカッションに積極的に参加した。これは、動物虐待の状況に関してもっと理解したいとの意思の現れだと言える。</p>	<p>いかに綿密に計画を立て、そしていかに与えられたチャンスをいかすかということ学んだ。運営側としてPY達の相互作用を促し、興味をかき立てるように努めた。この経験を通して、我々は返答のための傾聴というよりも、理解のための傾聴の必要性に気づかされた。また、異なる意見を尊重し、ディスカッションの目的に沿って思考回路を組み立てることを学んだ。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. インドネシアの文化紹介 2. インドネシアにおける客としての立ち居振る舞いの紹介と練習 3. インドネシア語での挨拶、インドネシアの食事作法の練習 4. ジャカルタでのホームステイに役立つ情報の提供 	<p>達成できた。このPYセミナーの目標は、PY達にインドネシアの大切な情報(文化)を伝えることであった。あるPYは、ジャカルタのホームステイの後で、ホストファミリーと交流する際に今回のPYセミナーが役に立ったと話してくれた。</p>	<p>自国の文化を伝え、他国との類似点を共有し、互いに学ぶ方法を得た。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活で自信を持つことに影響する個性の重要性を認識する 2. ダンスやファッションウォークを通して個性の形成方法を学ぶ 3. 自信を持つことに関する知識を広める 	<p>達成できた。参加者全員に自信を持つことの重要性を認識してもらうことができた。更に、参加者全員にセミナーを楽しんでもらい、PY達にお互いの交流を深めてもらうこともできた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個性を伸ばすためのダンス教室を企画するという経験ができた 2. 参加者のみならず、主催者にとっても個性と自信を伸ばすことができた 3. 多様な国のPY達のためにダンス教室を作り上げる経験ができた
<p>対話形式でセミナーを実施し、フィリピンの先住民族の生活様式、文化、直面している問題について理解を深める</p>	<p>達成できた。PY達がどれほどこのディスカッションを楽しみ、どれほど参加者全員が積極的に取り組んでいたかがうかがえた。アンケート結果からも、PY達のセミナーに対する好意的な評価と、私達の国や文化への理解の深まりについて知ることができる。</p>	<p>セミナーを主催するということは、間違いなくストレスの多いことであるが、セミナーの成功によって報われたと感じた。自分が情熱を注ぐものを共有する機会と、自分のリーダーシップ・スキルを発揮する場を持つことができた。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 浴衣の着付け 2. 日本の衣服文化の歴史を学ぶ 3. 日本の伝統的舞踊(郡上踊り)を知る 	<p>達成できた。日本の文化を広めることができた。PYの中には、自分で浴衣を着れるようになって、自分の国で浴衣の着付けを教えたいという者もいた。また、今回のセミナーは着付けや舞踊だけではなく、その背景にある意味も知ることができたので、有意義なものだったと言ってくれるPY達もいた。</p>	<p>当初20名限定でセミナーを行おうと考えていたが、約70名の希望があり、多くのPYが日本文化に興味を持ち、浴衣を自分で着られるようになりたいと思っていると分かった。そのため、参加者の枠を30名に変更し、浴衣を持参しているPY達(海外PYも含む)から浴衣を借りたり、ギフトの準備をしたりなど、多くのPY達に協力していただいた。PY達の協力がなければ、このセミナーをやり遂げることはできなかった。また、外国人に日本文化を簡潔に知ってもらうため、セミナーを企画運営する方法を学ぶことができた。</p>
<p>どのように人間の脳が機能するのかを参加者が理解し、記憶力を向上させるテクニックを実際に練習する</p>	<p>達成できた。参加者全員が記憶法を学び、効果的に練習することができた。</p>	<p>このセミナーで学んだテクニックを参加者が活用することで、このセミナーの創造力を見ることができた。</p>

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
1-7	マレーシア	「Edukillerism」教育はテロリズムを撲滅する		・短編動画（移民部屋での場面） ・TEDトーク
1-8	シンガポール	ゾンビー・ランと体制構築		・ゾンビー・ラン ・体制構築 ・大規模な体制構築
2-1	ブルネイ	変化は自分から（リーダーシップ・ワークショップ）		・自己振り返り活動 ・平等理論 ・チーム活動 ・チームビルディング活動 ・セッションの共有
2-2	ラオス	自分の肌を好きになろう 自分自身を好きになろう		・スキンケアの一般的知識 ・問題と対策 ・キレイになる秘訣
2-3	フィリピン	パロット（孵化しかけの卵）だけじゃない フィリピンの食を知ろう		・フィリピンの食文化 ・デモンストレーション：豚肉の調理、フィッシュ・シニガン（魚のスープ）、チキン・アドボ、バナナ・キュー（焼きバナナ）、トゥロン（バナナ菓子） ・試食

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
現在、東南アジアの若者は、世界で起こっていること、特にテロリズムに関してよく認識している。若者たちは、テロリズムやその歴史・背景を深く理解するという段階において、それぞれの技術や知的視点を高めながら何かをなし得ると信じている。このセミナーの主な目標は、PY達に、世界で起こっている現実の課題をより身近に感じてもらうことである。	達成できた。ディスカッションの終わりに、PYからの反響と好意的な評価があったので、今回のセミナーのやる気がますます上がった。銃でテロリストを排除することもできるが、マララ・ユスフザイが言うように、教育でテロを無くすことも可能である。このセミナーの想いも同様で、PYたちと議論してそれぞれの考えを共有し、更に、PYそれぞれの国で起こっていることやその対応を情報として集めることもできた。	教育は、宗教、文化、社会的背景などに関わらず、課題解決のために一つのテーマの下へ若者たちを集めることができる最初の手段になる。それぞれの国のテロリズムに関する様々な問題や規制について学び、教育の本来の役割はテロ行為が若者の間で広がることを防ぐことにあると気づかされた。若者が抱える最も重要な課題については、若い世代や団塊の世代の視点から解決されるべき。
1. 企画のプロセスにおいて、リーダーシップ・スキルを高める 2. 実行にあたり、チームワークの重要性に重点をおく	達成できた。PY達はセミナーの目的を理解し、作業を通してチームワーク力を示すことができた。PYたちは戦略について議論し、最大限作業に取り組んでいた。	異なる国籍や異なる言語・文化に合うセミナーを企画する経験、そして、チームビルディング活動の取組を経験した。主催者として運営上の側面から、複数名の協力を得ておけば良かったと反省する。協力を申し出てくれたシンガポールPY達には心から感謝したい。その他では、セミナーの所要時間が5分延びてしまったものの、おおむね時間の管理もできた。
このセミナーでは、動機付けの会話やグループ作業、自己反省の時間や個人的な物事の共有にかかる作業を通して、自身のモラル向上、自己肯定や自覚性に着目する	達成できた。PY達の評価は高く、セミナー後も話題になっている。中には、自分の目標や夢を実現すると力強く約束してくれたり、将来リーダーシップに関するワークショップにもっと参加すると話してくれたりするPY達もいた。当初掲げていた目標は達成された。	主催者として、偉大なリーダーになれるけれども、そのことに自信を持っていない人々の課題についてよく理解することができた。個人的な物事を共有する時間で、ASEAN各国と日本におけるリーダー達の話聞くことができた。主催者として私達はお互いの知識を共有し合い、PYたちに誰でもなりたい自分になれると信じてもらえるように努めた。私達は限られた時間の大切さを痛感し、セミナーの目標を達成するため、時間を最大限有効に使うよう努めた。
自分のスキンケアの経験を共有し、肌の大切さを説く。更に、参加者達とスキンケアの秘訣やアイディアを共有する。また、主催者としてプレゼンテーション・スキルを伸ばす。	達成できたかどうか分からない。参加者達はスキンケアの秘訣や自らの経験について共有し、多くのPY達がセミナーに集中してくれた。しかし、50人以上もの参加者がいたので、全員に対して説明しきれなかったかもしれない。	このセミナーでの経験を通し、人々をまとめたり、資料を準備したり、プレゼンテーションの内容を考えたりなど、多くのことを学んだ。
フィリピン料理を紹介し、典型的なフィリピン料理の粋を超え、多くの人々の食欲を減退させるパロット（孵化しかけの卵）に代表されるような食材についての理解を深める	達成できた。参加者からは総じて肯定的な評価を得た。	諸事情により多少セミナーの内容を変更する必要があったが、かえって私達は臨機応変に対応することを学び、目標を達成することができた。また、フィリピン料理について知っている人が少ないことに気づき、もっと紹介する必要があると認識した。



[1-5] 浴衣スキップ（日本）（11月23日）



[2-2] 自分の肌を好きになろう、自分自身を好きになろう（ラオス）（11月23日）



[2-4] クメール武術：ユートクロム・コム（カンボジア）（11月23日）



[3-1] 健康的なライフスタイル（ラオス、インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール）（12月5日）

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
2-4	カンボジア	クメール武術：ユートクロム・コーム	Lak Pichdimanche Huot Chanpav Roath Sophanna	・武術パフォーマンス ・クメール武術コームの背景紹介 ・基本姿勢と自己防衛の動きの練習 ・試合、コーム指令者
2-5	日本 タイ	ASEANと日本の教育の夢に届け		・それぞれの国の教育体制を絵で表す ・「質のある教育の成功事例」について話し合う ・「人生を変える」というテーマのプレゼンテーション ・ASEANにおける奨学金、研究費、留学プログラムについてのプレゼンテーション
2-6	日本	日本の医療技術、鉄道技術、税関制度		・医療技術と鉄道技術 ・税関制度
3-1	ラオス インドネシア マレーシア ブルネイ シンガポール	健康的なライフスタイル		・オープニング：自身の未来を切り開く ・ワークショップ：自分に秘められた美しさ ・ワークショップ：簡単に汗を流す ・クロージング：様々な形の健康
3-2	タイ	社会的事業を通して農家をどのように支援することができるだろうか		・農家、貧困、格差 ・タイを支援する社会的事業のケーススタディ ・ディスカッション ・グループワーク：農家を支援する新規の社会的事業モデル ・プレゼンテーションと行動計画のまとめ
3-3	シンガポール	芸術を通して地域社会に関わっていこう		・ゴム印彫りのワークショップ ・少人数グループでの作品づくり ・作品の共有 ・アイデアの共有と紹介
3-4	インドネシア	私は農家です。あなたは？		・経験の共有 ・都市農業の成功事例情報 ・運動に参加するシミュレーション
3-5	ラオス	チャンパー（プルメリア）の花を作ろう		・チャンパー（プルメリア）の花の意味を簡単に紹介 ・チャンパー（プルメリア）の花を作成

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
1. 他国のPY達にクメール武術を知ってもらう 2. 健康のために身体を動かすようPY達を促す	達成できた。参加者達は大変楽しんだ様子で、もう一度セミナーを開いてほしいという声も聞いた。	これまで話したことのないPY達とも知り合うことができた。自分が武術から学んだことをPY達に伝える機会を得ることができた。自分の対人コミュニケーション能力を向上させることができた。
1. 各国教育の良い面、悪い面を話し合って共有する 2. 日本の学校の好事例について理解する 3. 日本及びASEANで勉強するための奨学金情報を得る	達成できた。計画通りにセミナーを運営した。PY達は積極的に参加してくれ、主催者としても実用的な情報を提供することができた。	様々なアイデアを共有することで、より良いセミナーを企画・運営する方法について学ぶことができた。また、効果的に時間を管理する方法も学ぶことができた。
テーマに沿った私達の仕事を紹介し、意見交換を促す	達成できた。ただ、「Customs」という単語の意味を、「税関」という意味ではなく、日本の伝統や食事作法などの生活習慣についてのセミナーだと勘違いしていたPYもいた。	主催者の仕事について紹介することができた。また、同じ分野におけるASEANの状況についても知識を深めることができた。
家で簡単にできるエクササイズを教えたりすることにより、参加者を健康的な生活習慣へ導く	達成できた。参加者達は楽しみながら、上手にエクササイズに取り組んでいた。	主催者として、このセッションから多くのことを学んだ。特に参加者達が生活習慣について質問をした時に、参加者の意見から学びを得ることができた。また、家で簡単にできるエクササイズについて、新しいものを学ぶこともできた。
1. 社会的事業の概念をPYたちに伝える 2. ASEANの「農家」に関係する社会的事業についての知識とケーススタディを共有する 3. PY達に社会的事業や社会問題に対してもっと興味を持ってもらえるように促す	達成できた。PY達は、ASEANの農家の問題解決に資する基本的な社会事業モデルを計画するために、「リーン・キャンパス（ビジネスモデルの企画のためのツール）」やディスカッションで得た情報から、自分達の知識に当てはめて考えることができた。	1. セミナーの開催、管理方法を学んだ。 2. PY相互のセッションを企画する方法を学んだ。 3. PY達とのディスカッションからより多くの知識を得た。 4. 想定した結果へと導いていけるように、グループ活動を進める方法を学んだ。
1. 精神的健康とセルフケアの概念を紹介 2. 一手段として芸術を地域社会との関わりに用いる方法 3. 新しいスキルを学ぶ：ゴム印の見本 4. 共作の概念と、地域社会への導入方法	達成できた。セッションが終了する頃には、私が立てたセミナーの目標を達成することができた。PY達にそれぞれの学びを話してもらった際、私達が意図したことと合致する点についての言及があった。参加者は全員楽しんでこの活動に参加してくれた。	主催者として、臨機応変に対応する方法を学ぶことができた。特に大人数のグループを対象とする場合、一人ひとりの学習能力や学習速度の差異に応じて指導する必要がある。
都市農業の経験を共有する。農業における若者の役割について議論する。	達成できた。しかし、ディスカッションを通して、参加者達も主催者側もまだまだ学ぶことが多いと感じた。	主催者として、どんな状況にも対応できるように資料等を準備する必要があると反省している。このセミナーでは、農業分野の経験を有する者は一人だけだったので、その他はサポートメンバーとして加わっていた。しかしセミナー当日、その経験者が船酔いのためセミナーに参加できなかった。
1. 参加者にチャンパー（プルメリア）の造花の作り方を教える 2. 参加者にチャンパー（プルメリア）の花について深く知ってもらう	達成できた。参加者は自分達の手で花を作り上げることができた。	主催者として、時間管理や事前準備について学ぶことができた。

セミナーID	国	セミナーの題名	活動
3-6	マレーシア	小さなことで世界は変えられる	・TEDトーク形式のプレゼンテーション ・音楽の生演奏
3-7	フィリピン	ハイファイブ一緒にエイズを撲滅しよう	・ディスカッション、ロールプレイ、HIVと共に生きる人々の理解を深めるための手紙作り
3-8	ベトナム	ベトナムのコーヒーアート	・講義：奥深いベトナムコーヒー文化 ・共有：ベトナムの6種類のコーヒーの入れ方についての説明 ・対抗戦：ベトナムコーヒーに一番近い味のコーヒーを入れる対抗戦
3-9	カンボジア	クメール落書きアート	・落書きの実践 ・クメールの飾りとクメール落書きアートの実践 ・DIYでお土産作り
3-10	ミャンマー	日々の生活の中にミャンマーの伝統的慣行を垣間見る	・プレゼンテーション ・ディスカッション ・マハボテ（ミャンマー曜日占い） ・ミャンマーの伝統的名前の付け方
4-1	カンボジア インドネシア ミャンマー	目的を持った旅（ボランツリズム）	・セミナー：インドネシアにおけるボランツリズムの傾向、ボランツリズムの例、ボランツリズムの計画方法 ・ワークショップ：PYが旅程を作成 ・旅程をアピール、宣伝
4-2	ラオス	家族計画	・質問：愛とは ・家族計画（避妊方法）の紹介 ・コンドームの使い方 ・避妊方法の歌 ・ケーススタディ

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
1. 日常生活で廃棄物を減らす方法をPY達に教える 2. 正しいゴミの捨て方の重要性について意識向上を図る 3. 環境に対するPY達の知識を向上させる	達成できた。	1. 対象となる参加者が目標を達成しなかった場合の臨機応変な対応を学んだ。 2. 参加者の期待にどう応えるかについて学んだ。 3. 少人数グループでのセミナーの進め方を学んだ。
1. HIVやAIDSについての基礎知識を教える 2. HIVと共に生きる人々に対する悪いイメージが世間一般にあることに気づき、それに対して何ができるか考える 3. ギフトを作成し、HIVと共に生きる人々を気に掛ける	達成できた。参加者のやる気が主催者と一致し、成し遂げられた。	ASEAN及び日本のPY達は出身地に関わらずHIVと共に生きている人々に対し、関心があり、気に掛けていることを知った。多くの参加者がこのようなセミナーに参加するのは始めてだった。たくさんの同士を得た。
ベトナムコーヒーの文化と歴史を教える	達成できた。PYはセミナー内容、実践、セミナーの準備について満足していた。	1. 全ての準備物、ロジスティック関連事項の準備がよくなった 2. セミナーに雰囲気や活発感を出すための工夫（アロマの香りを作るために事前にコーヒーを入れる、席のアレンジ） 3. プレゼンテーションや説明のスキル
落書きアート（個人的に世界に広めるため努力している）とクメールの飾りに関する基本的知識を教える	達成できた。参加者はセミナーを楽しみ、クメールの飾りについて知識を得、DIYでポストカードを作成することができた。	参加者が絵を描き始めたときの印象は、絵も実際に描けて、創作性もあると感じた。誰もが自分の持つ芸術性を見出し、そこから芸術を学ぶことが出来るのだと感じた。才能が必要になることもあるが、練習と決意をもってすれば、人々はやり遂げられる。私自身、目標を達成し、人前で話をするという課題を克服した。
1. ミャンマーの伝統的な信仰や習慣を教える 2. ミャンマーで最も一般的に使われている曜日占いと名付け方法について教える	達成できた。伝統的習慣を伝えるという目標だったが、参加者は私達のプレゼンテーションを聞くだけでなく、占い表の計算をするなど、実際に体験することができた。	仲間にミャンマーの伝統習慣を教えることができ、大変嬉しく思った。聞き手との交流方法、また他国の信仰を学ぶことができた。
PY同士でボランツリズムに対するアイデアを出し合う	達成できた。ボランツリズムの旅程を作成しながらボランツリズムの概念に対する理解も深まった。	1. セミナーを作り上げるために他国のPY達と一緒に取り組む機会を得た。 2. 他のPYセミナー主催者とのネットワークを得た。
「家族計画の立て方」又は「愛に間違いはない、計画的でなかったことが間違い」という重要メッセージを基に、避妊について知り、理解する	達成できた。全ての活動が完了した後、参加者に全ての家族計画の方法について覚えているかの問いを投げかけた。全員が全ての家族計画の方法を覚え、コンドームの正しい使い方、家族計画やその重要性に対する理解を深めた。学んだことを特に身近にいる若者や友達、家族に伝えてほしい。	このPYセミナーに多くの人が参加することは期待していなかったが、45名のたくさんの参加者を得た。PY達はこのトピックに興味を持ち、学びたい気持ちがあった。正しいコンドームの使い方を知ることができた。気軽に話せるトピックではないが、全ての人々、特に若者は知っておかなくてはならない大事なことである。

セミナーID	国	セミナーの題名	活動
4-3	マレーシア	ペドフィリアは生まれながらのものか、それとも自分で選択するのか	<ul style="list-style-type: none"> ・ペドフィリア（小児性愛）被害者のビデオ、詩の朗読 ・マレーシアがこの行為を非難する理由、この行為に対するマレーシアの姿勢、法律や政策を話し合う ・この問題に対する先進国の姿勢について話す ・実行に移し、拡散する
4-4	フィリピン	プラスチック生活の日々の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック汚染の影響とASEANの現状について話す ・船内のあらゆる種類のプラスチックを集め、ゴミであるプラスチックを分別する ・使い捨てプラスチック反対運動のために、上位3つにあたるプラスチックの使い捨てを載せたポスターを作る ・使い捨てプラスチックをどのように使い捨てにせず代用できるかを話し合う ・プラスチックの無い消費習慣を継続する工程を記録するための3か月のカレンダーを作る
4-5	ベトナム	コミュニティ・ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の観光産業の歴史、また伝統的な観光の維持について話し合う ・共同体の観光モデルの紹介 ・ベトナム事例の分析でコミュニティ・ツーリズムについてのケーススタディー ・割り当てられた地域のコミュニティ・ツーリズムモデルの作成について話し合う
4-6	カンボジア	人生のタイムライン	<ul style="list-style-type: none"> ・TEDスタイルのトーク ・ガイド付きの瞑想 ・仲間と考えを共有 ・未来の自分への手紙 ・分かち合いと振り返り
5-1	マレーシア		<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ上映 ・美術工芸品作りのセッション ・自分の作品を見せたり、交換したりするセッション
5-2	ラオス	マジックブック作り	<ul style="list-style-type: none"> ・DIYの経験について共有し合う ・本を作る ・よくできたと思う本を見つける ・やる気を促す
5-3	フィリピン	ミュージ・アジアンフィリピンの先住民の音楽で繋がるアジアを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島の先住民の音楽のセッション及びワークショップ ・アジアの音楽について話し合う

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
<ol style="list-style-type: none"> 1. ペドフィリアの危険について広める 2. ペドフィリアの影響、この問題を論議すべき重要な話題、不法行為として参加者に話し合ってもらおう 3. 被害者に対するケアではなく、ペドフィリア行為を行う者を助け出す最良のケアを包括的に話し合い、明らかにする 	達成できた。ペドフィリアについてテストをしたり、意見を求めた。ペドフィリアは生まれながらのものか、それとも自分で選択するのか。セミナー終了時には全参加者がこのトピックについて明確、又は一般的な情報を得た。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大人数のグループの扱い方、まとめ方 2. どんな問題や状況にも対応できるよう備えること 3. ASEANや日本のPYからの新しいアイデア、法律や政策
ASEANにおけるプラスチック汚染状況への関心を高める	達成できた。参加者はプラスチックの無い生活に取り組むと決意してくれた。	問題解決に必要な資金の収集方法を学び、それぞれの主張を持つ仲間と出会うことができた。
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・ツーリズムの関心を高める：新しい持続可能なモデル 2. コミュニティ・ツーリズムの異なる地域への適用方法を学ぶ 	技術的問題（音響と映像）が発生し約90%の達成率だった。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベトナムやASEAN各国のコミュニティ・ツーリズムについての知識を深める 2. プレゼンテーション、セミナー構成スキル、解決志向の考え方を育てる 3. 同じ関心を持つ友を得た
参加者が人生の良いとき、悪いとき、両方を振り返り、失敗の経験に対して自己回復力を築けるような励みを探す	参加者は人生を振り返り、互いの経験を共有し、そこから学んだ。	多種多様な経験、キャリアを持つ参加者が互いに学びあう場、プラットフォームの構築方法を学んだ。多種多様な経験、キャリアを持つ参加者と交流することで今まで以上に自信をつけることができた。
くつろぎながら美術工芸品を作成し、他の参加者と話す時間を提供する	達成できた。PYは楽しみ、新しい友達を作った。	不測の事態があっても目的を貫き、できる限りのことを伝えなくてはならないということ学んだ。（波が荒くピスタスポットは激しく揺れた。）
リサイクル資源を使いDIYの本を作ることによって、身の回りにある物の価値について気づいてもらう	達成できた。PYセミナーを開くにあたって、コンテイングの仲間が、材料の準備やセミナーの流れを一緒に考えてくれ、手伝ってくれた。仲間の協力のおかげで自分自身も努力でき、目標を達成することができた。	このPYセミナーから多くを学んだ。特に、このセミナーの主催者、プレゼンター、スピーカーを務め、リーダーシップを発揮できたと感じた。このようなセミナーを主催するのは初めての経験だった。
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィリピンやアジア諸国の音楽の価値について話し合う 2. 様々なフィリピンの伝統楽器とその弾き方を教える 	達成できた。参加者は自分の好きな音楽で他の参加者と交流し、各国の伝統音楽の歴史についても話し合った。主催者、参加者ともに東南アジア、日本の音楽から繋がりを見ることができた。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽による各国とのつながりを確認できた 2. 伝統音楽の価値を今まで以上に見出した 3. 音楽を通して東南アジアと日本の関係性を強固なものにすることができた 4. 伝統音楽や楽器の保護活動をよりサポートするセミナーとなった

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
5-4	ミャンマー	教育・学習プロセスの鍵を開けるゲームとアクティビティ		<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーの数字を教え、「蛇と梯子」などのミャンマーのゲームで遊ぶ ・ミャンマー茶で休憩 ・現代のゲームで遊び、ゲーミフィケーションについて話し合う
5-5	カンボジア	お米のライブ		<ul style="list-style-type: none"> ・稲作文化についてグループ・ディスカッション ・稲作文化についてグループ・プレゼンテーション ・食糧安全保障についての講義、行動計画を練る ・問題と解決策についてグループ・ディスカッション ・グループ発表 ・試食
5-6	シンガポール	その手話はどんな意味		<ul style="list-style-type: none"> ・「People Babe」や「MIME Story」のような参加型や追放ゲーム ・理論 ・「Call me maybe」を歌う
5-7	ベトナム	海洋推積物: 変わる? 変わらない?		<ul style="list-style-type: none"> ・海の危険性（「金のベルを鳴らす」に似た形式のゲーム：世界の海洋推積物に関する衝撃的な事実、10の事項に関する質問） ・共有事項：海洋推積物の深刻さについて質問した理由を説明（定義、原因、影響の紹介） ・ディスカッション：各グループに問題のあるエリアを割り当て、その問題に対する解決策を分析する
5-8	日本	真の日本精神		<ul style="list-style-type: none"> ・剣道についての講義 ・剣道をやってみよう ・自分の柔道生活について ・忍者についての講義とクイズ ・忍者の振る舞いを体験しよう
6-1	ブルネイ	メンタルヘルス: うつ病の悪いイメージを排除する		<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病のサイン・症状、うつ病に関する誤解 ・話し合う（個人の経験） ・グループ活動 ・自己賛美活動 ・悪いイメージを排除する若者のためのプロジェクトをブレインストーミングする

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
いくつかの革新的なゲームやアクティビティに積極的に参加してもらう	達成できた。ゲームを使った学習の知識を教えることができた。また、参加者はミャンマーの数字を学んだ。	より詳細なゲームを使った学習や活用についての考え方をPYから学んだ。ゲームやアクティビティを通して教えることや学習を促進することを学んだ。
1. お米の考え方について理解を深める 2. 地域ごとのお米に関する食糧安全保障について意識を高める 3. 食糧安全保障に関わる問題解決のための若者主導の行動についての議論をする	達成できた。目的は達成され、セミナーは計画通り進み、参加者は積極的に参加した。	1. 時間管理とファシリテーション・スキル 2. ASEAN各国及び日本の参加者からお米にまつわる行事、生活、神話について多く学んだ。
ろう文化や基本的な手話を楽しく教える	達成できた。セミナーの後、PY達は手話で話したり、ろう文化についてもっと質問したりしてくれた。	1. 調査したこと以上の深い理解を得た 2. セミナーの結果を見て、自信が付き、手話を続けることを後押しされた。
1. 海洋推積物についてのPYの関心を高める（定義と影響） 2. 各国の海洋保護の取組について話し合う 3. 行動に移す	達成できた。PYからは高評価を得た。PY達はセミナーから学びを得た。	1. ブレインストーミングやセミナーの初めからの内容構築の方法 2. 飾りなどでセミナーをより活発な雰囲気にした（ビデオ、海洋生物の帽子） 3. プレゼンテーションとディスカッションのファシリテーション
参加者はこのセミナーを通して、講義からだけではなく体験して、真の日本精神を理解する	達成できた。参加者からたくさん的高評価をいただいた。	チームワーク、協力、やり遂げる楽しさを学んだ。ゼロからセミナーを作り上げることを経験し、詳細を企画する難しさを学んだ。（例：管理部から借りる物品など）
1. うつ病の知識や経験について話し合う（定義、サイン、症状、種類、克服する方法） 2. うつ病についてオープンに話してもらおう 3. メンタルヘルスの重要性に関する意識を向上させる 4. PYにうつ病は病気であり、障害であること、治療が必要であることを教える 5. うつ病と戦っている人は一人ではないという認識を持ってもらう	達成できた。想像していた以上のPYがセミナーに興味を示し、PYもうつ病に対する悪いイメージを排除したいと考えていることの現れだと思った。経験を分かち合うセッションでPYが心を開いて個人的経験を話したことはとても効果的であった。PYは自分のメンタルヘルスを大事にしたいとコメントした。PYはまた、経験を分かち合うセッションで、PY達の間にもっとつながりを感じたと話した。参加できなかった何人かのPYにビデオとパワーポイント資料を提供するよう依頼された。	1. 調査、企画、構成、プレゼンテーション・スキル 2. トピックに対する深い知識 3. アンケートを実施しデータを分析（PY70名分）



[4-5] コミュニティ・ツーリズム（ベトナム）
（12月5日）



[5-3] ミュージ・アジアン：フィリピンの先住民の音楽で繋がる、アジアを理解する（フィリピン）
（12月6日）



[5-4] 教育・学習プロセスの鍵を開けるゲームとアクティビティ（ミャンマー）（12月6日）



[6-8] 「アライ」になろう（日本）（12月6日）

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
6-2	フィリピン	回復力のパートナー：災害リスク軽減への若者の関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・災害の新しい標準 ・回復力のパートナーとしても若者 ・フィリピンPYに関係する災害リスク軽減の成功事例の話をする ・ワールドカフェ・ワークショップ
6-3	タイ	持続可能都市をサポートし多くの人に自転車に乗ってもらうには		<ul style="list-style-type: none"> ・講義：最も自転車に配慮された都市はどんな都市か。タイは自転車で動くに十分安全な国か。 ・ボードゲームを通してのディスカッション：等身大都市のレース
6-4	タイ	日本・ASEAN：旅モード・オン		<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッショントピック：旅行に対するあなたの情熱は ・ゲーム、ディスカッショントピック：ASEAN、日本を思いやりを持って旅しよう ・参加者によるトピックについての短編ストーリー：隠された宝石をあばこう
6-5	ベトナム	ボディシェイミングについて知っていますか		<ul style="list-style-type: none"> ・共有すること：物語り（ボディシェイミングについての会話のロールプレイ） ・講義：具体的な例でボディシェイミングの定義を理解する；ボディシェイミングの行為を認識する ・ディスカッション：他人に対するボディシェイミングと自己ボディシェイミングの違いを理解する
6-6	カンボジア	ヤシの木		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム「宝探し」でヤシの木に関する情報収集 ・カンボジアの観点からヤシの木について創造性のあるプレゼンテーション ・参加者のヤシの木に対する知識をテストするゲーム ・ヤシの木製品の展示、食品の試食
6-7	シンガポール	シンガポール文化		<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールの有名な歴史 ・シンガポールの物語 ・シングリッシュ ・シングリッシュゲーム
6-8	日本	「アライ」になろう		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション：用語の定義、日本における性的少数者の状況 ・意見交換

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の「新しい標準」と重要用語を理解する 2. 災害リスク軽減に携わるフィリピンの青年団体の成功事例について学ぶ 3. 若者の著しい関わりについて説明し、ASEAN各国及び日本の中での青年による災害リスク軽減や管理活動を洗い出す 4. 安全と回復力を観光の課題の一部としてプロモーションする 	<p>達成できた。このセミナーを通して、自分の知識をPYに伝え、参加者の体験を話し合い、異なる観点から良い考えを見出した。</p>	<p>青年達は災害の被害を直接受けてなくとも、助けたいという気持ちを持ち、助けたことで心が満たされるということを学んだ。経験を分かち合うセッションで感じた。人助けをしたいという気持ちは人間誰しもが持っているもので、基礎を学ぶことは大切だと話した。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自転車好きのPYと出会い繋がりを持つ 2. 歩行者と自転車をどちらもサポートする持続可能な都市設計 3. 自転車に乗るPY同士で体験したことやアイデアの交換をする 	<p>達成できた。参加者は持続可能な都市に対するたくさんのアイデアを喜んで話し合った。</p>	<p>東京、京都、マニラ、ヤンゴン、クアラルンプール等の異なる都市の交通機関の状況について学んだ。たくさんのPYから自転車での経験、政策に対するアイデアを学んだ。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 旅に対する情熱について話し合い、旅に対する愛をPY同士、交換し合う 2. 文化的誤解は必ずしも深刻な問題ではないことを説明する 3. 参加者にASEANや日本での観光スポットを紹介し招待する 	<p>達成できた。時間制限がある中、以下3つの目標を達成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい地に足を運ぶことだけが旅ではない、また、旅は人生にやりがいを与えてくれる経験であるという気持ちを持った。 2. 文化的誤解に関するASEAN諸国の面白い事実を知った。 3. 創造性に富んだアイデアを積極的に交換し、SSEAYP後どこに旅するかを決め、素晴らしい情熱的旅人になる。参加者はいかに自分が旅行が大好きであるかに気づき、SSEAYP後の旅を続けると言った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. アイデアを実践に移す方法 2. 異なる考えや、仕事の仕方を有する参加者との取り組み方 3. 情熱を語り合うことを楽しむ方法と具体的な活動を通して分かち合う方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. ボディシェイミングに対するPYの認識を高める 2. PYが自己愛についてじっくり考え、実践する時間を作る 	<p>達成できた。PYに対してボディシェイミングについて双方向の講義をし、その後話し合い、自分へのラブレターを書いたり、お互いの経験を話し合ったりしてボディシェイミングに対する解決策を実践した。</p>	<p>ワークショップの企画、内容の伝達や出席者に指示を出すことを学んだ。公の場で話すスキル、チームワーク、問題解決スキルも向上した。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. カンボジアの国木であるヤシの木を紹介する 2. 他国の木々を知る 	<p>達成できた。全てのアクティビティは完了し、参加者も積極的に参加していた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナーは5つの異なるアクティビティから成っており、飽きることがなかった 2. 熟練さと明確な指示はとても重要 3. 本物を試食したり、実際に経験してみることは効果的だった
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Ya-La」以外で、シンガポールについて理解を深める 2. シングリッシュの単語とその意味を知る 	<p>達成できた。時間内にプレゼンテーションを終えることができた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション方法及びプレゼンテーション中にすべきではないこと 2. 必要に応じてプレゼンテーションをしている最中はアシスタントをする人がいてくれると助かる
<ol style="list-style-type: none"> 1. アライ(支援者)になる 2. 自分がいる社会や地域で「アライ」になることができた。他国の政策の理由で、乗り越えられない部分もあった。 	<p>達成率は50%。参加者は全員「アライ」になることができた。他国の政策の理由で、乗り越えられない部分もあった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. グランドルールを共有し、互いを尊重し、宗教や文化に配慮することが大切 2. 特定用語の説明が難しかった 3. 宗教、文化面からみたLGBTQ問題の理解

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	活動
7-1	マレーシア	マリファナ合法化		<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオとプレゼンテーション ・グループゲーム ・グループディスカッション ・生演奏 ・ディスカッションについての発表
7-2	フィリピン	公的統治への青年参加 サングニアン・カバタアン(青年評議会)の経験		<ul style="list-style-type: none"> ・サングニアン・カバタアン(青年評議会)の歴史と重要性 ・サングニアン・カバタアン(青年評議会)の宇宙 ・再現可能なサングニアン・カバタアン(青年評議会)の成功事例 ・公開討論会、各国の取組をPYから話してもらう
7-3	ベトナム	グローバルな就職面接		<ul style="list-style-type: none"> ・共有：就職面接の経験について話し合う ・講義：面接の目的、面接の事前準備、面接での共通質問への対応、行動面接のお話 ・実践：模擬面接練習のロールプレイ
7-4	日本	茶道と習字		<ul style="list-style-type: none"> ・習字：歴史や特徴についての講義、デモンストレーションと練習(実践) ・茶道：歴史や特徴についての講義、デモンストレーションと練習(実践)
7-5	ミャンマー	神話を通してミャンマーをさ迷う		<ul style="list-style-type: none"> ・物語を話し、双方向のセッションを行う ・ロールプレイ
7-6	ブルネイ	ブルネイの伝統的ゲームとダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・ジョゲットと呼ばれる主に結婚式で使われるお祭りの踊り、クダヤン族の収穫を祝う「アドゥック・アドゥック」ココナツ殻ダンス ・伝統的なゲーム「ダトゥック・ハリマウ」、「パッタとキツツキ」
7-7	インドネシア	Selebgram (インスタグラマー)になりたい人		<ul style="list-style-type: none"> ・クールな写真を撮る ・経験を分かち合う ・スポンサーの獲得方法 ・ロールプレイ
8-1	マレーシア	衝動買いをやめよう		<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオセッション：セールは女性たちの気をどれだけ狂わせるのか ・ロールプレイ ・自己振り返り
8-2	タイ	フェイスブックで社会的影響力を高める		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動：フェイスブックページ及びコンテンツの作成 ・グループ発表

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
マリファナに対する人々の否定的な見方を変える	達成できなかった。時間が足りなく、セミナーを完結することができなかった。	波が荒く船が揺れる中、にっぽん丸でセミナーを行わないといけないという新しい経験
PYセミナー後、参加者は公的統治における青年の参加の重要性を理解する。更に、主催者の話を通して、若者が積極的に関わる地域社会の美しさを理解できるようになる。	達成できた。主催者は青年審議会での経験を伝えることができ、参加者は現在関わっている組織を超えたコミュニティーに積極的に参加する意欲をみせた。	このPYセミナーで学んだことは青年達は公的統治に直接関わるための取組は少ないが、参加者は彼らの地域社会にできる限り何らかの形で貢献したいと考えているということ。
国際的な場所での面接スキルをPYに備える(対象：学生、新卒者、経験の浅い社会人)	達成できた。プレゼンテーション・スライドのコピーをリクエストされたり、参加者が参加してないPYにこのセミナーで学んだことを話したりするなど、参加者の興味を引けたと感じている。しかし、登録したPYの1/3の出席に留まり、もっと多くの人たちに参加してほしい。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際色豊かな参加者へ講義を企画し、行った。 2. 異なる国のPY達の面接経験の話聞くことができた。 3. PYセミナー中の船酔い対応
伝統的な日本文化を教える。実際に体験し、基本的なスキルを習得して、茶道や習字についてもっとよく知ってもらう	全てを達成することはできなかった。波が荒かったので茶室で茶道をすることはできなかった。用意したものを提供できなかった。もう一度代替セミナーの企画をすべきだった。それ以外では、PY達はセミナーを楽しみ、私達、主催者にとっても満足いくセミナーになった。	PY達が日本文化を良く知ろうと、興味を持ってきてとても光栄に感じた。しかしながら、茶道や習字の精神面や抽象的な面について理解してもらうのは難しいと感じた。
物語を聞いてもらい、ミャンマーを知ってもらう	10段階で5、達成できた。船酔い者が多く、セミナーにあまり集中できていなかった。また、ひどい船酔いでセミナーに参加できないPYもいた。	セミナーの主催者を初めて経験したので、始まりから終わりまで全てが私が出た経験と教訓。
<ol style="list-style-type: none"> 1. ブルネイのダンスとゲームを紹介する 2. PYのことをもっとよく知る 3. 学びながら楽しむ 	達成できた。参加者は楽しみながら学んだ。	成功するセミナーにはチームワークと批判的思考の両方が必要である。
<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタル・マーケティングやソーシャル・メディアのプロモーションに関する情報を共有する 2. 基本的な写真の技術を教える 3. 写真を撮る場所で試行錯誤することで直に教える 	達成できた。提供した情報に参加者は満足していた。	人前で話すことや情報共有
<ol style="list-style-type: none"> 1. 衝動買いする人々に対する認識を高める 2. 衝動買いに対する解決策を話し合う 3. 衝動買いサインを伝える 	達成できた。波が高く船が揺れたため、主催者が船酔いになり、完全達成ではなかった。船酔いにより参加者の出席率にも影響が出た。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性も衝動買いすることもあるが、一般的には女性が多い。 2. SSEAYP期間中、使う金額について考えて話し合う。
<ol style="list-style-type: none"> 1. PYに自分達が人々に活力を与えるということを理解してもらう 2. PY達がなぜ社会のために動かなくてはいけないか、またその重要性について知ってもらう 	達成できた。PYセミナーのワークショップ中彼らのワークシートを見て、目標は達成されたと確認を得た。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 即興のスキル 2. 全てのアイデアを尊重することを学んだ 3. スピーカーになれるとは思っていなかったが、スピーカーとしてみんなの前で話せた

セミナーID	国	セミナーの題名	活動
8-3	ベトナム	ベトナムの多様な民族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義：ベトナムの民族の紹介 ・ 出産：キン族の起源を伝説の物語を通して紹介、生まれて約1か月の新生児へ家族でお祝い ・ 結婚：モン族の「妻を連れ去る」習慣の紹介、ザオ族の結婚の紹介 ・ 葬式：葬式の一年後に行われる祭事、エデ族の現在も受け継がれる伝統の紹介
8-4	ブルネイ	トゥドン、シンジャン、ダスタル	<ul style="list-style-type: none"> ・ アニヤマン（編み物）の個人指導 ・ ダスタル、シンジャン（衣服）の個別指導 ・ グループ活動 ・ 感想、意見交換セッション
8-5	ミャンマー	ライフハック（仕事術）とモチベーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体運動と信頼結合運動で導入 ・ 抽選をして、ハックをお知らせする ・ モチベーション関連のビデオやスライドショー
8-6	インドネシア	ハーブはうそをつかない	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション：裏話、ハーブの種類、面白い事実 ・ 経験を語る、ビデオ ・ ゲーム：ブラインドテスト（目隠しテスト）
8-7	タイ	海を追跡する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海の環境問題についてのディスカッション ・ 海洋保全の問題及び青年活動 ・ ワークショップ：水中手信号
8-8	日本	日本の現代社会におけるジェンダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義：日本におけるジェンダーの歴史 ・ トークセッション：現代の日本社会におけるジェンダー ・ 共有とケーススタディ

セミナーの目標	セミナーの目標は達成できたか	セミナー主催者として、この経験から何を学んだか
あらゆる民族を通してベトナムの文化を経験する	達成できた。参加者のお陰で時間管理、慎重に企画でき、大きな成功となった。	1. セミナーをまとめるスキル 2. 問題解決スキル
ブルネイ文化、特に衣装文化の紹介	達成できた。他国の参加者にブルネイ文化を紹介することができた。	主催者として、他国の、また宗教的観点から見た、ヒジャブやシンジャン、ダスタルを着用するブルネイ文化を見直すことができた。
ライフハックの力を借りて人生を理解し、楽しむそしてモチベーションをあげる	達成できた。セミナーの最初に技術的問題があったが、目標を達成することができた。参加者はセミナー後自分の人生をより楽しみ、そこに価値を見出した。	セミナー中、問題が起こった際の緊急事態への対処方法、そして知識や情報を仲間と分かち合う楽しさを学んだ。
1. インドネシアのハーブの種類やその効果の紹介 2. インドネシアのハーブを直に体験してもらう 3. インドネシアのハーブについて語り合う	達成できた。PYセミナーはスムーズに進んだ。参加者はとても積極的で、ハーブに魅了され楽しんでた。PYのおかげでセミナーは成功を収めた。	自分の経験を分かち合うセッションがあり（参加者、主催者を含む）、異なる国々からの考えや洞察を得る機会となった。PY達は自国のハーブや、ハーブにまつわる体験なども語り合った。
スキューバダイビング、シュノーケリング、海などに興味を持つPYを集め、海の会話にまつわる経験やアイデアについて語り合う	達成できた。ダイビングに興味を持つもの同士で友情を築くという目標を達成した。そうすることでより良いつながりと活動を作ることができた。	スキューバダイビングの経験を持つPYはたくさんいた。ダイビングはしないけれど、海での観光経験がある人たちもいた。このセミナーでのアクティビティの楽しみ方やアクティビティを使った自然保全について学ぶことができた。
無意識のうちに持っているジェンダーの固定概念に気づく。ディスカッションを通して、意見を共有し、視野を広げる。	達成できた。このセミナーで、参加者は問題の深刻さを思い知らされ、彼ら自身の問題として考えるようになった。	1. 人々のモチベーションを引き出すのは難しい 2. 異なる国々から様々な考えや意見を学んだ 3. このセミナーの準備を通して、日本における女性の歴史についてより深く学んだ

(6) ソリダリティー・グループ (SG) 活動

SG活動は、PY相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主にSG対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。この活動の運営は、担当顧問であるNL3名（タイ、ラオス、シンガポール）の指導の下、SG活動小委員会が行った。

SG活動小委員会は、SG内の団結力や連帯感を高めると同時に、活動を通してPYが心身ともにリフレッシュできるよう多彩な企画を立てた。こうしたSG活動を通して、SG内の結束だけでなく、PY全体の一体感も高められた。

<SG活動の日程・内容>

SG活動 I（11月7日）#Teamwork

- ・ SGチア（動物の鳴き声）
- ・ SG対抗ゲーム（家の中で猫がニャーと鳴く、ティック・

タック、人間知恵の輪、ラップ・イット・アップ、スネーク・ライン、ブラインド・デート)

SG活動 II（12月7日）#Challenge

- ・ SGチア（乗り物の音）



SG活動 (12月7日)

- ・ トレジャーハント（NLの写真パズルを完成させる）

SG活動 III（12月9日）#Unity

- ・ 名前あてゲーム
- ・ 1年後の自分へ向けた手紙を書く
- ・ SSEAYP全体の振り返り
- ・ 皆でお互いにメッセージを書き合う

(7) ナショナル・プレゼンテーション (NP)

NPは、各国毎にPYが音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、各国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めることを目的としている。訪問国につ

いては、その国に関する知識を事前に得ることができるよう、各国に到着する前日に当該国のNPを開催した。

他の船内活動に支障をきたさないように、準備時間を設けるなど配慮した。企画・準備から司会進行、パフォーマンス、音響・照明、ステージの飾りつけに至るまで、全てPYが役割を分担して行った。NPにより各国PYたちは、それぞれの文化の差異を再認識するとともに、日本と東南アジア文化圏の中での多様性や類似性について実感した。

また、各国の食文化に対する理解を促進することを目的として、各国NPが行われる日の昼食には、当該国の代表的な料理が二品提供された。

【各国NPの概要】

日本	<p>テーマ「Shinka」</p> <p>日本は、東京のみならず各地方においても外国文化を取り入れながら日々変貌を遂げている。この傾向は、過去から現在へ脈々と受け継がれている。今年度、日本のNPは、そのテーマとして「Shinka」という単語を通じ日本紹介を行った。「Shinka」という読みを五つの漢字に変換し、それぞれの漢字が持つ意味から日本を捉え表現している。第一幕の「進化」では、1964年の新幹線開通から現代までの歴史をその時代の奮起に合わせた寸劇と動画を通じて紹介した。第二幕の「新化」では、現代日本に焦点を置き、伝統文化を現代的な音楽に載せた書道パフォーマンス、オタク芸とアイドルダンスによるサブカルチャー、そして現代の先端技術を伝える医療や鉄道のプレゼンテーションを行った。第三幕の「深化」では、日本の「道」の思想を紹介する弓道、柔道、剣道を披露することで、深化の源流にあたる日本の奥深さを紹介した。また、日々の生活においても神が宿るという思想について動画を交えながら篠笛、和太鼓演奏を披露した。第四幕の「親化」では、日本の震災において国内外から支援をいただいたことへの感謝、被災者・非被災者の実直な声、復興のための様々な施策、復興歌などをプレゼン形式で行った。終幕となる「真価」では、時代が変われども受け継がれてきた日本の心について、祭の踊りを通じて表現した。伝統的なソーラン節、現代的な大東京音頭、和を象徴する郡上踊りを披露し、最後は会場のPYも含め全員でよっちょれを踊った。</p>
カンボジア	<p>カンボジアのNPは、クメールの文化とファッションの豊かさを広めることを目的としている。冒頭では導入として、「クメールファッションの発展」というテーマのもと、ビデオを上映した。またパフォーマンスは、「クロマー」と呼ばれるクメールの伝統的なスカーフに焦点を当てたもので、物語の筋としては、王妃の病を治すため聖なるクロマーを探し求める王の旅を描いたものとなっている。古典的で伝統的な踊りや、カンボジアの古代武術、その他の文化的なパフォーマンスを多分に含みながら物語は進行する。カンボジア人が持つ温かく親切にもてなす心や助け合いの文化についても、この物語の大きな見所となっている。NPの最後では、観客を巻き込んだカンボジアの現代舞踊が実現し、会場全体が一体感に包まれ、印象深く終わりを迎えた。</p>
タイ	<p>テーマ「タイの文明開化」</p> <p>タイのNPは、過去から現在までのタイの文化的繁栄と伝統を元に作り出されている。タイという国はもともと文化的資源に恵まれており、そこにはタイの人々が長い間大事にしてきた古典的伝統とともに、各地方の多様性に満ちた文化そのものも含まれている。「タイの文明開化」は、その多様性に満ちた文化や伝統、そして人々の生活様式を描写するため、光と音を効果的に利用した一連のパフォーマンスとなっている。</p>
ラオス	<p>テーマ「チャンパーランドのケーンの音色」</p> <p>ラオスのNPは、首都ビエンチャンに加え、北部地域や南部地域におけるラオスの様々な祭りを再現している。オープニングでは、「伝統的なラオス美の行列」と呼ばれるパレードで観客たちを迎え入れるとともに、次のパフォーマンスへと誘ってゆく。続いて、「ケーンの音色」という歌の演奏が始まる。ケーンとは、日本の笙に似たラオスの伝統楽器であり、その音色は人々に喜びをもたらすと同時に郷愁を掻き立てる。ラオスの国花である「チャンパーの花」を題材として、パフォーマンスが次々と披露されていく。ラオス北部地域で伝承されている「ろうそくの灯火と舟合戦の祭り」、「サイナムコー川の新年の祝い」が舞台上で再現され、さらに、日本とASEANの友好関係とASEAN設立50周年を記念し、「アセアンは一つ」という歌を演目に加え、最後には、我々ラオスPYが第44回「東南アジア青年の船」事業のために創作した歌、「内なる愛」で締めくくった。</p>
インドネシア	<p>インドネシアのNPは、アジア競技大会でインドネシア代表選手となることを夢見る少女の物語となっている。アジア競技大会とは、アジアの国々が参加して執り行われる国際的なスポーツの祭典で、2018年にはインドネシアで開催されることが決定しており、そのテーマは「黄金の戦士」である。このNPを通し、我々インドネシアPYは、来るべきアジア競技大会を紹介するとどまらず、芸術における現代と伝統の融合を目指し、多様性の中に生きる我々若者たちの文化と精神を視覚的に表現しようと試みている。</p>
マレーシア	<p>マレーシアのNPでは、踊りを通じた美しい多民族文化を描写している。まずオープニングでは、特別な儀式の際に王族の前で披露されるという「アシックの舞」が紹介された。次に、「ガムラン」と呼ばれる踊りが続き、踊り手たちはガムランという打楽器に合わせて舞を舞う。途中のビデオ上映では、マレーシアPYたちが1980年代や1990年代の人々に扮してマレーシア文化を紹介すると同時に、2050年までに世界順位10位入りを果たすというTN50 (Transformasi Negara 2050:2050年国家改革)の説明を加えることで、マレーシアの現在の姿を示すものとなった。さらに、多種多様な中華系やインド系の踊りが繰り広げられ、観客は畏敬の念に打たれたことだろう。14種にも及ぶ踊りの数々によってNPは盛り上がりを迎え、最後には、マレーシアを訪れる世界中の人々への思いを馳せた歓迎の踊りで締めくくられた。</p>

ブルネイ	<p>ブルネイ国民のアイデンティティを形成する要素は大きく三つあり、ブルネイのNPではその三つの要素に焦点をあてている。一つ目の要素として、ブルネイ国王への畏敬と賞賛を挙げ、2017年10月5日に催された国王即位50年祝典をハイライトで紹介した。二つ目の要素は、ブルネイ人の多様な民族性であり、踊りや伝統武術を通して歴史や信条、確固とした帰属意識、そしてブルネイ人であるということの誇りを伝えている。三つ目の要素は、伝統と文化であり、歌や工芸品を通じて表現している。NPで使用した歌の数々は、ブルネイ人の手による楽曲であり、そのひとつひとつには、ブルネイ人の気迫や心が込められている。また、同様に使用した小道具や工芸品の数々は、すべてブルネイ人の手によって作られたものであり、高い技術力と細やかな心遣いが伺える。加えて、ブルネイで大人気の観光スポットをビデオ上映で紹介し、ブルネイに興味がある人々へのささやかな贈り物とした。</p>
ミャンマー	<p>ミャンマーのNPの題目は「ザガワ」である。「ザガワ」は、別名メイウナともいうポッパメドゥについての古典劇を元に作られたものである。この伝説的叙事詩は、ポッパ山、すなわち金色のザガワの花々に彩られた山の物語となっている。劇は、チージーチャムナツという踊りではじまる。ナツと呼ばれる守護精霊たちは、長い間、広くミャンマーの人々に信仰され、しだいにミャンマーの風習や伝統となっていった。いまや、信者の前でナツという踊りを舞うことは、ある種、文化や風習であるとも言える。大抵、ミャンマーの伝統楽器のリズミカルな生演奏に載せて舞われることの多いナツ踊りではあるが、一方、コージーチョーナツという踊りは、若い女性たちに宿る四つの精霊たちの役割を現すものとなっている。パフォーマンスの主要部分は、「ザガワ」劇そのものであり、ポッパメドゥ、すなわちミャンマーにおけるナツ聖地であるポッパ山の守護霊に關しての物語となっている。金色のザガワの花々に彩られた山は、ミャンマー最強のナツ神が宿る場所である。ザガワ劇の名称ともなっている金色のザガワの花々は、物語のテーマとしてその存在感を増している。物語の主人公メイウナは花食い鬼として知られているが、死後、彼女はナツ神、つまりポッパメドゥになっている。メイウナはバガンの騎士と結婚し、息子を二人もうけるが、その息子たちは後に王によって殺されてしまう。劇は12場面で構成され、元々のストーリーには存在しない人物もここでは登場している。劇を支える音楽や舞台演出は、バガン時代のポッパ山の雰囲気を用意的に作り出すものとなっている。NPの終盤では、ザガワの地の伝承舞踊が披露され、ポッパ山のナツ守護精霊たちに祈りを捧げる聖地での様子が見えがえる。踊り手たちは大概女性となっており、訪問者たちを歓迎してザガワの花々を身にまとっている。このNPのテーマはナツ守護精霊（ミャンマー信仰）とも言え、一連の音響や照明効果によって、物語の筋が引き立てられている。また、人々に厚く崇拝されている精霊信仰や、ミャンマーの文化そのものを反映する伝統劇とも称することができるだろう。</p>
フィリピン	<p>フィリピンのNPは環境運動を擁護しており、海洋保全や保護に焦点を当てたものとなっている。スルー海には、ユネスコの世界遺産にも登録されているトゥバタハ岩礁海中公園というサンゴ礁があり、その重要性を特徴付けている。NPのタイトルとして、フィリピン語で楽園を意味する「パライツ」という単語を掲げた。パライツという名称は、1980年代に人気となった環境を歌った歌から拝借している。NPの内容は、フィリピン群島の最古の人々にまつわる架空の物語を伝えるものとなっており、それはキリスト教徒であったり、イスラム教徒であったり、原住民であったりと物語の上で検証されてゆく構成となっている。踊りや劇、音楽の演奏に一貫しているメッセージは、人々の生存に直結する水保全の重要性を説くというものである。更に、海洋資源の保全や保護のため、全PYを巻き込み、キャンペーンソングを作り上げることに一役買っている。最後は、フィリピンの多様な文化と人々の美しさを強調すべく、楽しさと陽気さを提供する踊りで締めくくられる。</p>
シンガポール	<p>テーマ「シンガポールの秘密のゲーム」</p> <p>シンガポールのNPは、「シンガポールの秘密のゲーム」と題した物語となっており、シンガポールの歴史と古代の生活、そして多文化主義を表現した彩り豊かな構成となっている。物語のはじめに、素敵な四人組と呼ばれる集団が登場する。この四人組は、アトックという地域で古いゲームを発見した集団という設定になっている。サイコロを繰り返し振る音によって、四人組は時空を超えた楽しいゲームの世界へ連れて行かれることとなり、その四人組には、ゲームをやり遂げるという一連の挑戦が課せられている。シンガポールのはじまりは、その昔、ある村社会の中で誕生したサンニラウタマ王によってもたらされたという。インド系、中華系、マレー系のダンスを寄せ集めた多文化的な踊りは、それぞれの異なる文化が如何に調和をもって存在しているかということ表現している。さらに、国民兵役がはじまって50年と、国としての独立から52年ということを祝う場へ、四人組みは導かれていく。「シンガポールの秘密のゲーム」と題する我々のNPは、この国の温情、活気、調和を強調するものとなっており、まさしく我々が「家」と称するにふさわしいものを表現しているのである。</p>

ベトナム	<p>テーマ「意義のあるベトナム」</p> <p>ベトナムのNPは、「Vクラス」をコンセプトとしており、3つの授業に分けて構成されている。</p> <p>「歴史の授業」では、3つの主なパフォーマンスを通して、ベトナム4,000年の歴史を紹介するものとなっている。「国花『蓮』の美しさ」と題するパフォーマンス、高地のパフォーマンス、そして影踊りの3つである。</p> <p>「社会学の授業」では、スマートフォンを過剰利用する現在の若者たちの問題を取り上げている。ここでは、現代舞踊が披露されている。</p> <p>「芸術の授業」では、アオザイという民族衣装の美しさとともに、ベトナムPYの多種多様な才能を披露している。</p>
------	--

(8) 自主活動

自主活動は、一人又は複数のメンバーにより、自らが行いたいと思う活動を自由に企画し、参加者を募り、実践する活動である。これにより、PYは自らの考えや思いを発信、企画、実践する力を養うことができ、国やSG、ディスカッショングループの枠を超えて活発に交流することができた。

<自主活動の例>

- ・ ミスター&ミス「アポン・ラーオ」コンテスト
- ・ SSEAYPタレントショー
- ・ PERA O BAYONG（フィリピンTVショー）
- ・ ベトナム子供の遊び
- ・ ベトナムの食
- ・ 映画鑑賞会
- ・ 日本酒紹介
- ・ タイ・テンプルフェア
- ・ タイマッサージ
- ・ ベトナム100年の美
- ・ 船内青年起業家の集い
- ・ 食フェスティバル
- ・ ダンス

(9) 訪問国活動振り返り

訪問国における活動や経験を振り返り、SGごとに共有した。これにより、PY個々の活動や経験を異なる観点から見直すことができた。

(10) フリーデー

船内及び訪問国での密度の濃い活動をこなす中、PYの体調管理のための時間を確保するため、公式な活動を行わない半日フリーデーを3回、全日フリーデーを2回、設けた。また、フリーデーは、PYが自発的に自由に参加者同士の交流を深める機会でもあった。フリーデーとした日はモーニングコールや運動を行わず、モーニング・アセンブリーは通常よりも時間を遅らせ、12時から12時30分の間に行った。

(11) その他の活動

① 避難訓練（11月2日）

ドルフィンホールでにっぽん丸乗組員から説明を受けた後、各自室に戻り、船内放送と非常ベルを合図に、各自救命胴衣を着用し、指定の避難場所に集合した。ここでは担当の乗組員から緊急事態発生時の対応方法について説明を受けた。

② 船内見学（11月4日）

SGごとに、操舵室の見学を開催した。備えられている最新の機器やその操作方法等について乗組員から説明を受けた。

③ 管理官講話（11月5日）

駒形健一管理官が、出航にあたって、PYに講話を行った。日本・ASEAN関係の歴史的経緯、船での交流活動の意義などを述べ、本事業が多くの関係者に支えられているものであることを常に意識し、自身の成長を通して支えてくれた人々に報いてほしいと激励した。

④ 船長講話（11月5日）

にっぽん丸の二宮悟志船長が船の設備や航海に必要な専門知識について説明した後、海に関する質疑応答を行い、PYの船及び航海に対する認識を高めた。

5 訪問国活動

訪問国における活動は、各国政府及び各国受入委員会が計画し、実施した。各国受入委員会には各国事後活動組織のメンバーも含まれており、バスへの添乗など訪問国活動の実施に当たっては、既参加青年が中心的な役割を担った。

東南アジア各国の寄港地には、4～5日間の日程で訪問し、それぞれの国において、一般家庭でのホームステ

イ、政府要人への表敬訪問、地元青年との交流、産業・教育・文化・社会福祉分野などの諸施設を見学する課題別視察などを行った。カンボジアの訪問国活動においては、ディスカッション活動の8グループごとに、グループ・テーマに沿った内容の課題別視察を行った。

以下は、各国における訪問国活動日程を訪問国順に記録したものである。

(1) カンボジア

月日	時間	活動内容
11月9日 (木)	17:00 18:00-20:00 20:00-20:30	入港（シアヌークビル港） カンボジアにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール）
11月10日 (金)	7:10/7:15 9:00-11:00 13:00-14:00 18:00-20:30	プノンペンへ出発（QD-6676便/QD-6678便） カンボジア王国首相表敬訪問（於 首相府ピースパレス） ・ 駒形健一管理官から第44回「東南アジア青年の船」事業報告 ・ H.E. Samdech Akka Moha Sena Padei Techo Hun Senカンボジア王国首相挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影 ホームステイ説明（対PY、於 ソカ・プノンペン・ホテル） 歓迎夕食会（於 ソカ・プノンペン・ホテル） ・ 駒形健一管理官挨拶 ・ H.E. Mr. Pit Chamnan教育青年スポーツ副大臣挨拶 ・ 記念品交換 ・ PYによるコンティンジェント・チアー ソカ・プノンペン・ホテル宿泊
11月11日 (土)	9:00-11:00 11:40-12:40	課題別視察（ディスカッション・グループ（DG）別） DG1: カンボジア青年連盟 DG2: 王立プノンペン大学メディア・コミュニケーション学科 DG3: 王立プノンペン大学国際学科 DG4: KHANA DG5: Krousar Thmey（新しい家族） DG6: 国連開発計画 DG7: 環境省 DG8: 国立経営大学 ホームステイ・マッチング（於 カンボジア工科大学） <管理官、各国NL、管理部員> ソカ・プノンペン・ホテル宿泊
11月12日 (日)	14:00-15:00 16:10/16:35 18:00-21:00	PYホームステイから集合（於 プノンペン国際空港） シアヌークビルへ出発（QD-6671便/K6-7231便） <管理官、各国NL> 既参加青年の集い（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）

月日	時間	活動内容
11月13日 (月)	8:45-9:15	記念撮影（於 シアヌークビル港）
	9:45-11:00	地元青年との交流（於 ソカ・ビーチリゾート）
	14:00-15:00	船内公開
	15:30-16:30	出港式（於 シアヌークビル港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ PY代表Mr. Bui Minh Quan（ベトナムYL）挨拶 ・ H.E. Mr. Hun Manyカンボジア王国国会議員・カンボジア青年連盟会長挨拶
	17:00	出港

(2) タイ

月日	時間	活動内容
11月16日 (木)	7:30-8:00	タイ及びラオス国旗掲揚式（於 ドルフィンホール）
	9:00	入港（バンコク港）
	10:00-12:00 12:30-13:15 13:15-13:45 14:00-15:00	タイにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 記者会見（於 ラウンジ「海」） 受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール） 到着歓迎式（於 ドルフィンホール） ・ Mr. Puttipat Lertchaowasit社会開発・人間安全保障省事務次官挨拶 ・ 駒形健一管理官挨拶
	17:30-18:00	<管理官、各国NL・YL・AYL> 社会開発・人間安全保障大臣表敬訪問（於 タイ王国海軍コンベンションホール） ・ Mr. Puttipat Lertchaowasit社会開発・人間安全保障省事務次官から第44回「東南アジア青年の船」事業報告 ・ Pol. Gen. Adul Sangsingkeo社会開発・人間安全保障大臣挨拶 ・ 駒形健一管理官挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影
	18:00-20:00	歓迎夕食会（於 タイ王国海軍コンベンションホール） ・ Pol. Gen. Adul Sangsingkeo社会開発・人間安全保障大臣挨拶 ・ 地元学生によるパフォーマンス ・ PYによるパフォーマンス ・ 日タイ修好130周年記念及び東南アジア諸国連合（ASEAN）設立50周年記念展示
11月17日 (金)	9:45	<管理官、ラオスNL、各国YL> ラオス・ビエンチャンへ出発（PG-943便）
	9:30-12:00 14:00-16:00	スタディビジット（SG別） SG-A,B:ラッタナーコシン歴史展示館 SG-C,D,E:ゴールデン・ジュビリー農業博物館 SG-F,G:タイ国立科学博物館 SG-H,I:バンコク国立博物館 SG-J,K:王立チットラダー・プロジェクト 地元青年との交流（SG別） SG-A,B:タンマサート大学ブアイウンパーコーン開発学部 SG-C,D,E:パトナムターニー高齢者社会福祉開発センター SG-F,G:ランスイット・ベビーホーム SG-H,I:パヤータイ・ベビーホーム SG-J,K:スアンドウシット料理学校

月日	時間	活動内容
11月18日 (土)	9:30-10:15 11:00-12:00	ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール） ホームステイ・マッチング（於 バンコクユースセンター）
	11月19日 (日)	13:00
18:00-21:00		既参加青年の集い（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）
11月20日 (月)	12:00-13:00	PYホームステイから帰船
	14:00-15:00 15:30-16:30	船内公開 出港式（於 バンコク港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ Mr. Vitat Tachaboon社会開発・人間安全保障省子供青年局長挨拶 ・ PY代表Mr. Hean Menghuot（カンボジアYL）挨拶 ・ 記念品交換
	17:00	出港

(3) ラオス（代表団：管理官、ラオスNL、各国YL）

月日	時間	活動内容
11月17日 (金)	11:00 13:30-14:15	ビエンチャン国際空港到着（PG-943便） ラオス青年同盟総裁表敬訪問（於 ラオス青年同盟） ・ H.E. Mr. Sonethanou Thammavongラオス青年同盟総裁挨拶 ・ PY代表本多功一（日本YL）挨拶 ・ 記念品交換 ラオス青年ラジオ局訪問
	15:20-15:40	ラオス人民民主共和国首相表敬訪問（於 ラオス政府庁舎） ・ H.E. Mr. Thongloun Sisoulithラオス人民民主共和国首相挨拶 ・ 駒形健一管理官挨拶 ・ 記念品交換
		15:40-16:00 19:00-21:00
	11月18日 (土)	
11月19日 (日)	9:30 11:45	PYホームステイから集合（於 ビエンチャン国際空港） タイ・バンコクへ出発（PG-944便）

(4) インドネシア

月日	時間	活動内容
11月24日 (金)	9:00	入港(タンジュンプリオク港)
	9:00-11:00	インドネシアにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング(対COC)
	12:15-12:45	イスラム教徒のための金曜礼拝(於 スタジオ)
	12:50-13:20	記者会見(於 ラウンジ「海」)
	13:20-13:40	受入委員会によるオリエンテーション(対PY、於 ドルフィンホール)
	13:40-14:20	到着歓迎式(於 ドルフィンホール) ・ Mr. Jonni Mardizal青年スポーツ省創造経済担当大臣補佐官挨拶 ・ 駒形健一管理官挨拶
	16:00-17:00	ASEAN事務局訪問 ・ Ms. Abigail C. Lanceta ASEAN事務局ASEAN社会・文化共同体部人間開発局教育・青年・スポーツ課長挨拶 ・ 駒形健一管理官挨拶 ・ PY代表によるパネル・ディスカッション ・ 松原一樹ASEAN日本政府代表部参事官挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影
	18:00-21:00	歓迎夕食会(於 国立レジリエンス研究所) ・ Mr. Gatot S. Dewa Broto青年スポーツ省副大臣挨拶 ・ 記念品贈呈 ・ 記念撮影 ・ PYによるパフォーマンス
11月25日 (土)	9:00-9:30	ホームステイ説明(対PY、於 ドルフィンホール)
	11:30-14:00	ホームステイ・マッチング及びカルチャー・パフォーマンス(於 LIPIホール) ・ 地元青年によるパフォーマンス ・ Ms. Pia Adiprma SSEAYPインターナショナル・インドネシア(SII) 会長挨拶 ・ アンクルン(伝統楽器)パフォーマンス
11月26日 (日)		<PY> ～終日ホームステイ～
	18:00-21:00	既参加青年の集い(於 ドルフィンホール及びダイニングルーム)
11月27日 (月)	12:30-13:30	PYホームステイから帰船
	14:00-15:00	船内公開
	15:30-16:30	出港式(於 タンジュンプリオク港) ・ PYによるフラッグ・チアー ・ PY代表Ms. Akrimar Tongkaew(タイYL) 挨拶 ・ Mr. Husein Murad北ジャカルタ市長挨拶
	17:00	出港

(5) マレーシア

月日	時間	活動内容	
11月30日 (木)	7:30-8:00	インドネシア及びマレーシア国旗掲揚式(於 ドルフィンホール)	
	9:00	入港(ポートクラン港)	
	9:30-11:30	マレーシアにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング(対COC)	
	13:00-13:30	受入委員会によるオリエンテーション(対PY、於 ドルフィンホール)	
	14:30-15:30	到着歓迎式(於 ブーステッド・クルーズセンター) ・ PYによるチアー ・ 駒形健一管理官挨拶 ・ Datuk M. Saravananマレーシア青年スポーツ副大臣挨拶 ・ 記念品交換	
	19:45-21:00	歓迎夕食会(於 コンコルドホテル・シャーアラム) ・ 記念撮影 ・ 折笠弘維駐マレーシア日本大使館公使参事官挨拶 ・ Brig. Gen. Khairy Jamaluddinマレーシア青年スポーツ大臣挨拶 ・ 記念品交換 ・ PYによるパフォーマンス	
	21:00-21:30	記者会見(於 コンコルドホテル・シャーアラム)	
12月1日 (金)	8:30-9:00	ホームステイ説明(対PY、於 ドルフィンホール)	
	10:00-11:30	表敬訪問及び課題別視察(SG別) 管理官及びNL:Dato' Seri Ronald Kiandeeマレーシア代議院副議長表敬訪問(於 マレーシア代議院) SG-A,B:国際青少年センター(IYC) SG-C,D:IKTBN Sepang SG-E,F:プトラジャヤ・コーポレーション SG-G,H:NAZAコーポレーション SG-I,J:KLスポーツ・シティ SG-K:ペトロナス社	
	15:30-16:30	ホームステイ・マッチング(於 Dewan Seri Siantan) ・ Mr. Nik Abd. Kadir bin Nik Mohammadマレーシア青年スポーツ省事務次官補挨拶	
12月2日 (土)		<PY> ～終日ホームステイ～	
	18:00-21:00	既参加青年の集い(於 ドルフィンホール及びダイニングルーム)	
12月3日 (日)	11:30-12:30	PYホームステイから帰船	
	13:00-14:00	船内公開	
	15:00-16:30	出港式(於 ブーステッド・クルーズセンター) ・ PY代表Ms. Thavonsouk Phonethavy(ラオスYL) 挨拶 ・ Dato' Lokman Hakim bin Aliマレーシア青年スポーツ省事務次官挨拶 ・ PYによるフラッグ・チアー ・ 記念品贈呈	
		17:00	出港